



養父市とビバホールチェロコンクール

養父市は、平成16年4月に兵庫県北部の八鹿町・養父町・大屋町・関宮町の4町が合併して誕生した人口23,000人余りの小さな市です。

市の東部を一級河川円山川が流れ、その支流の八木川に沿って八鹿・関宮地域が、大屋川に沿って養父、大屋地域が位置しています。

西部は、県下最高峰の氷ノ山をはじめ、妙見山、鉢伏山、ハチ高原、若杉高原など山岳高原地域で、自然環境に恵まれ、春夏秋冬楽しむことができます。

また、肉用牛のトップブランドとして名を馳せている但馬牛の飼育が古くから盛んで、牛の神・農業の神を祀る養父神社、国指定文化財の名草神社など、歴史いっぱい、自然いっぱいのまちです。

交通は、京阪神と山陰地方を結ぶ主要な幹線道路である国道9号線が東西に、姫路方面と山陰地方を結ぶ国道312号が南北に通っています。また、北近畿豊岡自動車道の整備工事が着々と進んでおり、市内には、八鹿氷ノ山インターチェンジと養父インターチェンジが設置され、京阪神からは車で2時間弱で繋がりました。

また、養父市は、平成26年3月28日に、国家戦略特別区域諮問会議において、国家戦略特別区域に指定されました。この特区指定を受けて、高齢化の進展、耕作放棄地の増大等の課題を抱える中山間地域において、高齢者の方々に積極的に活躍していただくとともに民間事業者との連携による農業の構造改革を進めることにより、耕作放棄地の再生、農産物・食品の高付加価値化等の革新的農業を実践し、輸出も可能となる新たな農業のモデルを構築すべくがんばっています。

ビバホールチェロコンクールは、合併前の旧養父町で平成6年にスタートし、第15回目を迎えます。ビバホールは、市民ボランティアがホール運営を行っている、333席の小さなホールです。チェロコンクールもスタッフはすべてボランティアが携わり、全国的にもまれな運営となっています。ビバホールチェロコンクールに出場した多くの若手チェリストは、その後、各方面で活躍しています。